



## 「鉄鋼業の中国展開における現状と課題」

### 【サマリー】

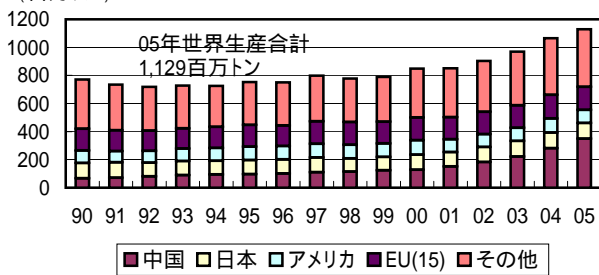
- ・中国では、急速な経済成長に伴い鉄鋼生産力の急拡大が続き、2005年の粗鋼生産は前年比25%増の3.5億トンと、世界生産の3割を占める規模に成長している。しかし、過剰投資の結果、中国の鉄鋼生産能力は需要を1.2億トン余り上回っており、さらに1.5億トン相当の生産設備が建設中及び計画中との情報もあり、能力過剰とともに、効率性の低い小規模な高炉が大半を占めているなど、中国鉄鋼業界の構造的な問題が指摘される。
- ・中国の需要サイドについては、旺盛な不動産投資に伴う建設用鋼材のほか、自動車や電気機械などに使われる高級鋼材の需要も高まっているものの、汎用材については過剰生産が懸念される一方、高級鋼材は技術面の制約などから輸入に依存している状況にある。このため、中国政府は、鉄鋼産業の発展及び国際競争力強化を図るべく、外資規制や製鉄所の建設制限(新設禁止)を盛り込んだ「鉄鋼産業発展政策」を05年7月に発表している。
- ・近年、欧米の大手鉄鋼メーカーは、中国における鉄鋼需要の拡大に注目し、自動車や家電向けから建設用鋼材、シームレス鋼管等幅広い分野での事業展開を図るべく、中国メーカーとの合弁企業設立や買収などを進めている。  
一方、日本メーカーは、  
中国政府の産業政策の変更リスク  
地元メーカーの集約の遅れによる過剰な生産力  
技術流出の懸念  
などを背景に中国での事業展開には慎重姿勢にある。
- ・鉄鋼業界の世界的な再編が進められる中で、日本メーカーにとっては既存設備の高度化により高級鋼材へのシフトを図り、収益力を高めて企業価値向上につなげることが喫緊の課題となっている。また、中国での事業展開については、経済面及び政治面でのリスクに加え、05年7月に発表された「鉄鋼産業発展政策」を前提に考えれば、川下の鋼材加工分野を中心とする戦略は合理的な選択と評価できる。



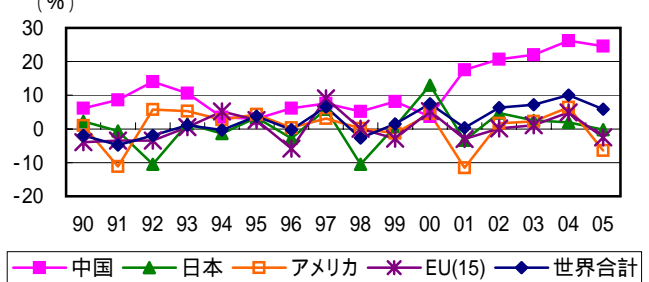
## 1. 世界の粗鋼生産と中国の鋼材需給

- 世界の粗鋼生産は、90年代中頃から拡大基調を辿り、2005年の生産量は前年比5.2%増の11.3億トンとなった。特に01年以降、年率20%前後の伸びを続けている中国の生産拡大が顕著であり、05年には世界の31%のシェアを占めている。日本は、景気を持ち直しから自動車や造船など製造業向けの内需を主体に高水準の生産が続き、05年の粗鋼生産は過去4番目となる1.1億トンとなった。(図表1および2)。
- 世界の主要国・地域の鋼材ベース(普通鋼と特殊鋼の合計)による輸出入動向をみると、日本、EUは輸出超過、中国、韓国、米国は輸入超過となっている。鉄鋼業は需要地立地の性格が強く、鋼材貿易は同一地域間同士の割合が高い(図表4)。
- 中国の2004年における鋼材輸出入バランスは、輸出が26百万トンに対し、輸入が36百万トンと、約10百万トンの輸入超過になっている(図表5)。
- 中国鉄鋼産業は、非効率な小型高炉が乱立し、条鋼類や熱延薄板類などの汎用材に著しく偏った生産体制にあり、主に建設用途の汎用鋼材を輸出する一方、日本や韓国などから自動車や電気機械向けの高級鋼材を輸入している(図表6)。
- 過剰投資によって中国の鉄鋼生産能力は需要を1.2億トン余り上回り、さらに1.5億トン相当の生産設備が建設中及び計画中との情報もある。過剰生産が国外との価格差を生んでいることから、アジア市況の軟化を懸念する指摘もある。
- しかし、中国の一人当たり粗鋼消費量は依然として日本の1/3程度に止まっており、引き続き高級材を中心とした需要増加が期待されることから、中国市場に対する世界の鉄鋼メーカーの関心は高い(図表6)。

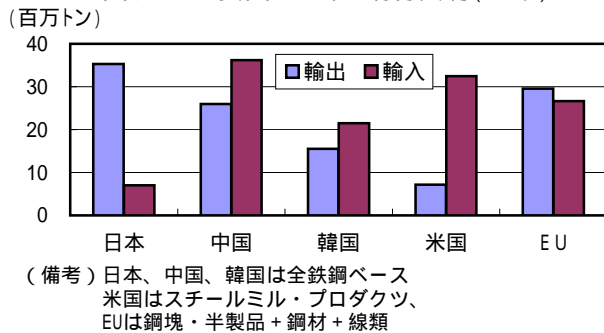
図表1 世界の粗鋼生産推移



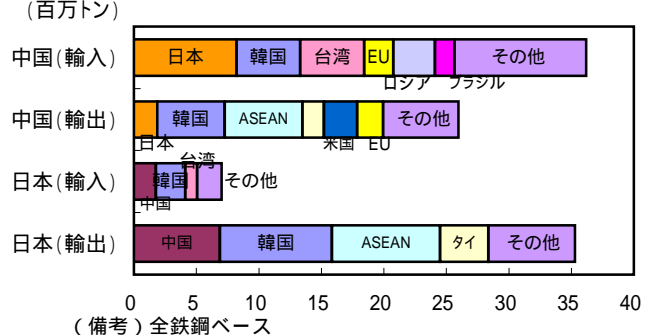
図表2 主要国・地域の粗鋼生産増減率



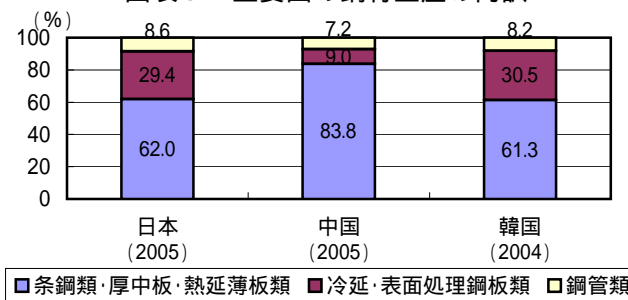
図表3 主要国・地域の鋼材貿易 (04年)



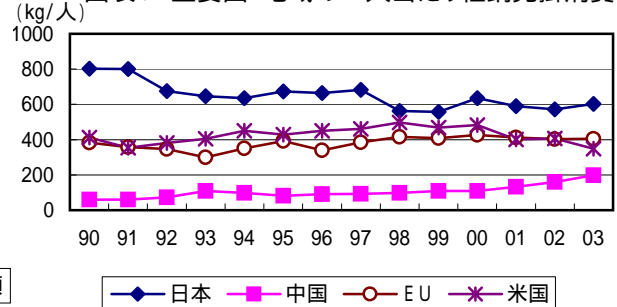
図表4 日本と中国の鋼材輸出入 (04年)



図表5 主要国の鋼材生産の内訳



図表6 主要国・地域の一人当たり粗鋼見掛消費



(備考) 図表1～6は(社)日本鉄鋼連盟「鉄鋼統計要覧」により作成



## 2. 鉄鋼メーカーのアライアンス動向

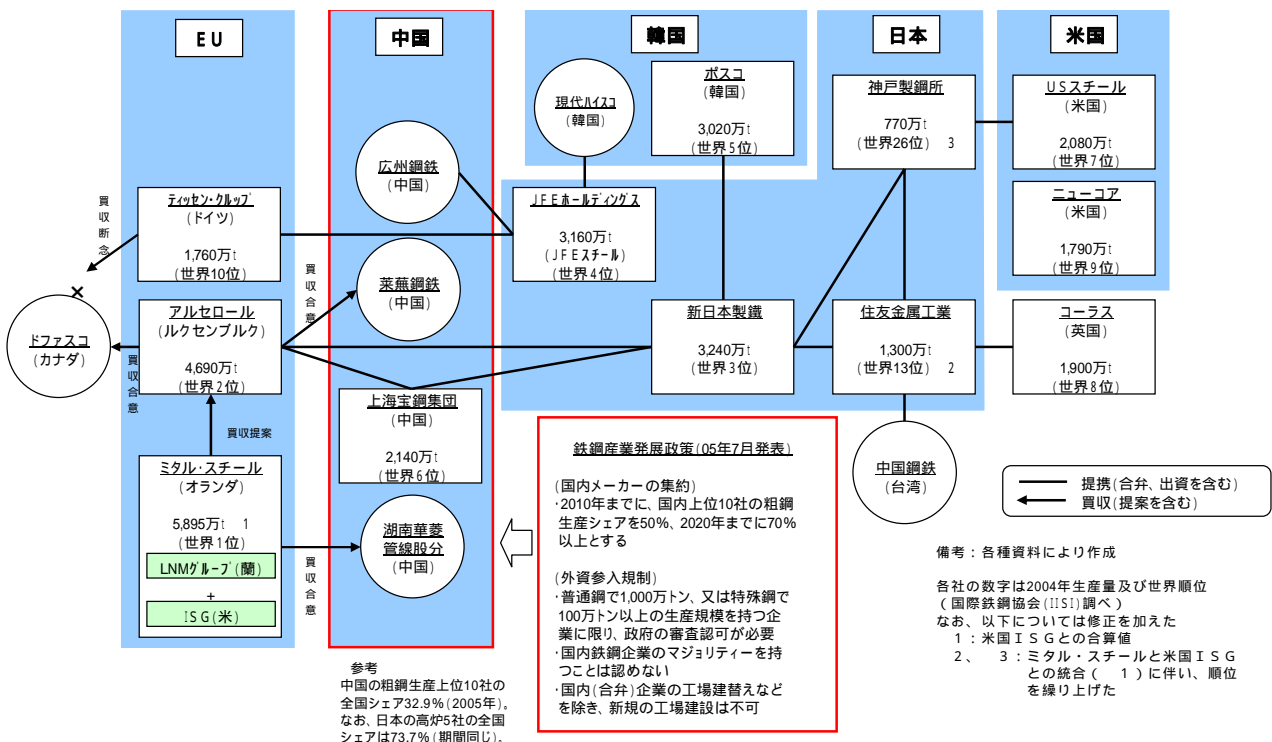
- 世界の主要鉄鋼メーカーの粗鋼生産をみると、上位30社に中国企業は6社が含まれている。しかし、中国最大の上海宝钢集団ですら世界1位のアルセロールと比較すると1/2以下の生産量である。中国の鉄鋼業界は諸侯経済の典型とされ、中小規模のメーカーが各地に散在していることから、合理化や技術開発の遅れが指摘されている(図表7)。
- 世界的には、ミタル・スチールによるアルセロールの買収提案など、欧州を中心に大手鉄鋼メーカーによる再編が行われている。巨大な生産力を持つメーカーは、原料価格などに対しても影響力を持つとみられる(図表8)。
- 世界の粗鋼生産の約3割を占める中国においては、生産体制の再構築が喫緊の課題となっており、中国政府は05年7月に発表した鉄鋼産業発展政策の中で、国内メーカーの集約と外資参入規制を打ち出した。今後は、中国メーカー同士の統合に外資との提携が加わり、中国の鉄鋼業界は再編に向かうとみられる。

図表7 世界の主要鉄鋼メーカーの粗鋼生産量(04年)

(単位:万トン)				(単位:万トン)			
順位	企業名	国名	生産量	順位	企業名	国名	生産量
1	アルセロール	ルクセンブルク	4,690	16	住友金属工業	日本	1,233
2	LNМグループ	オランダ	4,284	17	Evráz Holding	ロシア	1,223
3	新日本製鐵	日本	3,141	18	インド鉄鋼公社	インド	1,214
4	JFEスチール	日本	3,113	19	鞍山鋼鉄	中国(遼寧省)	1,193
5	ポスコ	韓国	3,105	20	マグニトゴルスク	ロシア	1,128
6	上海宝钢集団	中国(上海市)	2,141	21	武漢鋼鉄	中国(湖北省)	931
7	USスチール	米国	2,083	22	ノヴォリベツク	ロシア	910
8	コーラス	英国	1,994	23	ウジミナスグループ	ブラジル	895
9	ニューコア	米国	1,791	24	イミドロ	イラン	870
10	ティッセン・クルップ	ドイツ	1,758	25	ザルツギッター	ドイツ	869
11	リバ・グループ	イタリア	1,670	26	首都鋼鉄	中国(北京市)	848
12	ISG	米国	1,611	27	馬鞍山鋼鉄	中国(安徽省)	803
13	ジェルダウ・グループ	ブラジル	1,340	28	INIスチール	韓国	792
14	セウエルスター	ロシア	1,280	29	神戸製鋼所	日本	767
15	中国鋼鉄	台湾	1,253	30	唐山鋼鉄	中国(河北省)	766

(備考) (社)日本鉄鋼連盟「鉄鋼統計要覧」により作成

図表8 世界の鉄鋼メーカーのアライアンス動向



参考  
 中国の粗鋼生産上位10社の全国シェア32.9%(2005年)。なお、日本の高炉5社の全国シェアは73.7%(期間同じ)。



### 3. 鉄鋼メーカーの中国展開

- 近年、欧米の大手鉄鋼メーカーは、中国における鉄鋼需要の拡大に注目し、自動車や家電向けから建設用鋼材、シームレス鋼管等幅広い分野での事業展開を図るべく、中国メーカーとの合弁企業設立や買収などを進めている。一方、日本メーカーは、中国政府の産業政策の変更リスク、地元メーカーの集約の遅れによる過剰な生産力、技術流出の懸念、などを背景に中国での事業展開には慎重姿勢にある(図表9)。
- 日系鉄鋼メーカーの中国展開
  - <新日鉄>  
04年にアルセロール(当時世界1位、ルクセンブルク)、上海宝钢集団(中国トップ、世界6位)と合弁で、上海に自動車向け等の鋼材加工会社設立(新日鉄出資比率38%)。現地の日系自動車メーカーやアルセロールの顧客である欧州系メーカーへの供給が主体。
  - <JFE>  
03年に広州鋼鉄(03年粗鋼生産量 240万トン)との合弁により、広州市内に自動車向け等の鋼材加工会社を設立(JFE出資比率51%)。広州鋼鉄グループからの持ちかけにより、共同で一貫製鉄所(高炉)新設に向けたFS調査を実施したものの、05年7月の「鉄鋼産業発展政策」に係る、政府の運用動向を見極めるため最終判断を07年以降まで留保している。
- 欧州鉄鋼メーカーの中国展開
  - <アルセロール>  
新日鉄、上海宝山鋼鉄との上記合弁事業とは別に、04年に自動車向けのレーザー溶接加工工場を上海宝山鋼鉄と2社で立ち上げた。また、06年には大手条鋼メーカーである萊蕪鋼鉄の買収に乗り出し、規模拡大を図っている。
  - <ミタル・スチール>  
05年に中国有数の鉄鋼グループである湖南華菱鋼鉄集団の子会社を買収して、中国市場の布石を築いた。
- 鉄鋼業界の世界的な再編が進められる中で、日本メーカーにとっては既存設備の高度化を図り、企業価値向上につなげることが喫緊の課題となっている。また、中国での事業展開については、経済面及び政治面でのリスクに加え、05年7月に発表された「鉄鋼産業発展政策」を前提に考えれば、川下の鋼材加工分野を中心とする戦略は合理的な選択と評価される。

図表9 主要鉄鋼メーカーの中国進出状況

	新日本製鐵	JFEホールディングス		アルセロール			ミタル・スチール
相手先	上海宝山鋼鉄 アルセロール	広州鋼鉄		上海宝山鋼鉄 新日本製鐵	上海宝山鋼鉄	萊蕪鋼鉄	湖南華菱管線股分 (華菱鋼鉄の子会社)
場所	上海市	広州市		上海市	上海市	山東省萊蕪市	湖南省
アライアンス内容	合弁 (新日鐵38%出資)	一貫製鉄所 (高炉)建設  2007年以降まで、 判断を留保	合弁 (JFE51%出資)	合弁 (アルセロール12%出資)	合弁	買収 (38.41%取得)	買収 (36.7%取得)
アライアンス開始時期	2004年7月設立		2006年春	2004年7月設立	2004年11月稼働	2006年2月合意	2005年1月合意
アライアンス規模	冷延鋼板:90万t 表面処理鋼板:80万t		冷延鋼板:検討中 表面処理鋼板:40万t	冷延鋼板:90万t 表面処理鋼板:40万t	レーザー溶接パネル 年1,000万枚加工	粗鋼生産:1,034 万t	n.a.
製品用途	自動車、家電、建材	自動車、家電、建材	自動車、家電、建材	自動車	H型鋼など	シームレス鋼管	
投資額	約1,000億円 (3社合計)	1,000億円超	約200億円	約1,000億円 (3社合計)	1億ドル	約300億円	約360億円
備考	自動車用高級鋼板を生産。母材(熱延薄板)の大半を供給する上海宝山鋼鉄は、新日鉄の協力で設立。	中国政府の鉄鋼産業発展政策(05/7発表)に基づく外資規制や製鉄所建設制限により、結論は留保。	JFEが供給する冷延鋼板を表面処理して、主に自動車向けの亜鉛めっき鋼板を製造。	欧州自動車メーカーに供給。	自動車向けとしては中国初。レーザー溶接パネルの9割が輸入品とされる。	条鋼類の生産を主体とする大手メーカー、ミタルからの買収を防ぐ目的で、アルセロールが規模拡大を図ったとする指摘もある。	中国・台湾の大手鉄鋼メーカーに対する買収を計画中とする情報が多数報じられている。

(備考) 各種資料により作成

[調査部(産業調査担当) 末武 良久]

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部  
Tel: 03-3244-1840  
E-mail: report@dbj.go.jp